

2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年12月14日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
 コード番号 6425 URL https://www.universal-777.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富士本 淳
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO (氏名) 麻野 憲志 TEL 03-5530-3055
 四半期報告書提出予定日 2022年12月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2022年12月期第3四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	88,614	53.6	579	—	12,404	—	2,529	—
2021年12月期第3四半期	57,683	△25.2	△4,330	—	△7,735	—	△18,398	—

（注）包括利益 2022年12月期第3四半期 584百万円（—％） 2021年12月期第3四半期 △20,904百万円（—％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第3四半期	32.65	32.64
2021年12月期第3四半期	△237.45	—

（注）2021年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年12月期第3四半期	613,473	339,504	55.3	4,380.85
2021年12月期	572,381	338,919	59.2	4,373.31

（参考）自己資本 2022年12月期第3四半期 339,445百万円 2021年12月期 338,861百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	0.00	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2022年12月期（予想）期末配当は、未定としております。

3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	139,000	53.7	11,000	461.3	19,000	—	9,500	—	122.61

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期3Q	80,195,000株	2021年12月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	2022年12月期3Q	2,711,001株	2021年12月期	2,711,001株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期3Q	77,483,999株	2021年12月期3Q	77,484,108株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4)連結業績予想について」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 連結業績予想について	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(4) 追加情報	9
(5) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

2022年12月期 第3四半期累計	売上高	営業損益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
個別(百万円)	40,321	△1,835	9,590	3,667
連結(百万円)	88,614	579	12,404	2,529

遊技機事業については、パチスロ機において、前期からの継続販売となる『沖ドキ! DUO』の増産販売や、『バーサスリヴァイズ』、『パチスロ デビル メイ クライ 5』、『SLOT えとたま』、『A PROJECT』の最新作『ニューゲッターマウス』、新基準6.5号機『パチスロ新鬼武者2』、パチンコ機においては、『Pミリオンゴッド-一撃-』、『P真バジリスク～甲賀忍法帖～』、『Pバジリスク～桜花忍法帖～早咲き桜99ver.』等の市場投入を行いました。その結果、当四半期連結累計期間の販売台数は88,378台(前年同期比 6,375台増)となりました。

統合型リゾート(IR)事業については、オカダ・マニラの業績は堅調に推移しており、来場者数がパンデミック前に近い水準まで回復したこともあり、売上高は増加しました。また、不法占拠に伴う損失には含まれないものの、当該不法占拠に付随する販管費(主に訴訟関連費用)の増加により営業利益が減少した一方、円安ドル高の進行により為替差益を計上、リース契約の変更による賃貸借契約解除益、リース資産負債の減少差額を営業外収益に計上したことから、経常利益が大幅に増加した一方、特別損失に固定資産除売却損、不法占拠に伴う損失を計上しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は88,614百万円(前年同期比 53.6%増)、営業利益は579百万円(前年同期 営業損失4,330百万円)、経常利益は12,404百万円(前年同期 経常損失7,735百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,529百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失18,398百万円)となりました。なお、事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。各業績数値はセグメント間売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

①遊技機事業

当第3四半期連結累計期間における遊技機事業の売上高は39,130百万円(前年同期比 11.2%増)、営業利益は6,779百万円(前年同期比 37.1%増)となりました。

当第3四半期における市場環境は、パチスロ市場において、新たなゲーム性を有した新基準6.5号機の本格的な市場投入が開始され、パチスロ機における平均稼働が回復する等、パチスロ市場の好転に大きく貢献しております。特に主力となる一部タイトルは、パチンコホールの期待に応える稼働を見せており、パチンコホールの新台入替の軸はパチンコからパチスロへと移行しつつあります。

かかる状況下で当社は、パチスロ機では、『A PROJECT』の最新作『ニューゲッターマウス』、株式会社カプコンとの業務提携による遊技機第3弾、新基準6.5号機『パチスロ新鬼武者2』の販売を行いました。この『パチスロ新鬼武者2』は6.5号機屈指の稼働水準を誇り、パチンコホールから高い評価を得ております。パチンコ機では、『Pバジリスク～桜花忍法帖～早咲き桜99ver.』の販売を行いました。なお、当第3四半期連結累計期間においても、当社はパチスロ機総販売台数上位のシェアを確保しております。

②統合型リゾート(IR)事業

当第3四半期連結累計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高⁽¹⁾は48,775百万円(前年同期比 124.7%増)、営業利益は2,197百万円(前年同期 営業損失2,541百万円)となりました。また、当第3四半期における調整後EBITDA⁽²⁾は13,459百万円(前年同期比 607.0%増)となりました。

2022年5月31日から2022年9月2日までの期間、岡田和生氏とその指示を受けたグループが起こした施設占拠等による影響を受けたものの、オカダ・マニラの業績は堅調に推移しており、メインアトラクションである世界最大級のマルチカラー演出による噴水「ザ・ファウンテン」の再稼働、クリスタルコリドーエリアを利用したイベントの誘致や新たなリテイル店舗の開店等により、来場者数がパンデミック前に近い水準まで回復しました。

2022年9月5日付「(開示事項の経過)オカダ・マニラの施設及び運営奪還に関するお知らせ」に記載のとおり、当社グループはTIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.が運営する統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」の施設及び運営の管理権を奪還しており、運営体制の正常化には時間を要しますが、そのために必要な調査を実施しております。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したもの

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

③その他

当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は578百万円（前年同期比 13.2%減）、営業損失は110百万円（前年同期 営業損失79百万円）となりました。

メディアコンテンツ事業においては、『ハナビ通』のシミュレータアプリをApp Store・Google Playにて配信いたしました。月額制サービスの「ユニバ王国」では、『アナザーゴッドポセイドン-海皇の参戦-』（iOS版）、『ミリオンゴッド』（iOS版）、『バジリスク～甲賀忍法帖～絆』（iOS版）を配信し、Android版:計44機種/iOS版:計15機種となりました。基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、パチスロ機『タコスロ』の世界観をモチーフにしたビデオスロットを追加し、計53機種となりました。またDMM GAMESにおいて、2022年8月よりPC版の提供を開始いたしました。いずれのサービスも、機種数を増やすことでユーザーの新規獲得と満足度向上に努めております。

(2) 財政状態に関する説明

当四半期連結会計期間末における財政状態については、以下のとおりです。

総資産の額は、円安ペソ高により固定資産が増加、円安ドル高による長期預け金、関係会社長期預け金の増加、持分法適用会社への貸付金が増加した一方、リース契約の変更によるリース資産の減少、持分法投資損失の計上による減少により、前連結会計年度末に比べて41,091百万円増加し613,473百万円となりました。

総負債の額は、連結子会社における短期借入金の返済による減少、リース契約の変更によるリース債務の減少があったものの、円安ドル高の進行による社債、長期借入金、関係会社長期預り金の増加、建設関係に関する未払費用の増加もあり、前連結会計年度末に比べて40,507百万円増加し273,969百万円となりました。

純資産の額は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益の計上もあり、前連結会計年度末に比べて584百万円増加し339,504百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①遊技機事業

遊技機業界では、パチスロ市場における6.5号機主力タイトルの好調な稼働に加え、2022年11月よりスマートパチスロの市場投入が開始しており、さらなる市場の活性化が予測されます。

第4四半期においては、株式会社カプコンとの業務提携による遊技機第4弾となる『パチスロ バイオハザード RE:2』、ドンちゃん3兄弟シリーズの最新作『花火絶景』の市場投入を開始しております。また本年10月より、沖ドキ！シリーズの最新作『沖ドキ！GOLD』の販売を開始しており、いずれの機種においても受注台数は好調に推移しております。

当社は引き続き、独自性のある魅力的な遊技機創出に努めてまいります。またその魅力ある遊技機を通して、遊技機業界全体の活性化に貢献してまいります。

(ご参考) 2022年12月期 パチスロ・パチンコ販売台数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期(受注済)
販売台数(台)	37,739	24,926	25,713	61,670

(注) 第3四半期までの実績については、「2022年12月期 第3四半期決算補足資料」

(<https://www.universal-777.com/corporate/ir/library/result/>) をご参照ください。

②統合型リゾート(IR)事業

当社グループが運営する統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」は、政府による新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策に係る規制と緩和に対応しながら運営を続けております。第4四半期においては、リワードサークルメンバーに対するプロモーションの強化に加え、カジノ事業以外でも複数のリテイルテナントの開店やイベント誘致等により、来場者数のさらなる増加が見込まれます。

2022年11月14日付「2022年12月期第3四半期報告書の提出期限延長に係る承認申請書提出のお知らせ」にてお知らせしましたとおり、最高裁判所での判決等の交付については、当初の予定よりも控訴裁判所から最高裁判所へ事実認定結果の提出が延長されました。そのため引き続き最高裁判所の判決等の交付を待っている状況です。今後公表すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

③その他

メディアコンテンツ事業においては、2022年10月より『SLOT マッピー』のシミュレータアプリをApp Store・Google Playにて配信を開始しており今後も高品質なシミュレータアプリを配信してまいります。月額制サービスの「ユニバ王国」では『サンダーVリボルト』、『SLOT魔法少女まどか☆マギカ』（iOS版）を配信いたしました。基本

プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」は、本年10月に5周年を迎え、パチスロ機『SLOTシャドウハーツⅡ-運命の道標-』の世界観をモチーフにしたビデオスロットを追加しました。引き続き新規機能の追加、コンテンツの拡充、サービスの改善を行い、ユーザー満足度の向上を図るとともに、音楽配信サービスでの楽曲配信を随時拡充してまいります。

(4) 連結業績予想について

2022年12月期の通期連結業績予想につきましては、2022年11月14日に修正を行っております。詳細については、同日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,771	33,130
受取手形及び売掛金	11,177	8,533
有価証券	452	2,244
商品及び製品	2,204	4,498
仕掛品	13,517	13,510
原材料及び貯蔵品	9,301	10,840
その他	12,735	14,708
貸倒引当金	△2,416	△791
流動資産合計	77,743	86,674
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	279,943	355,388
建設仮勘定	58,486	7,008
リース資産(純額)	54,727	51,511
その他	35,198	38,818
有形固定資産合計	428,355	452,727
無形固定資産		
その他	1,005	1,203
無形固定資産合計	1,005	1,203
投資その他の資産		
投資有価証券	18,520	16,244
長期預け金	7,110	8,910
関係会社長期預け金	27,909	35,114
その他	12,525	16,542
貸倒引当金	△1,692	△4,624
投資その他の資産合計	64,372	72,188
固定資産合計	493,732	526,119
繰延資産	905	679
資産合計	572,381	613,473

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,245	10,131
短期借入金	5,750	—
1年内返済予定の長期借入金	3,594	7,421
未払金	10,212	11,503
未払費用	20,238	27,884
未払法人税等	176	85
賞与引当金	81	281
その他	11,759	18,439
流動負債合計	60,058	75,746
固定負債		
社債	90,318	114,018
長期借入金	9,948	6,552
退職給付に係る負債	230	263
関係会社長期預り金	5,750	7,240
リース債務	62,225	59,325
その他	4,930	10,822
固定負債合計	173,403	198,223
負債合計	233,461	273,969
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,829	18,829
利益剰余金	327,426	329,955
自己株式	△7,317	△7,317
株主資本合計	339,036	341,565
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26	△2
為替換算調整勘定	△282	△2,209
退職給付に係る調整累計額	81	92
その他の包括利益累計額合計	△174	△2,120
新株予約権	58	58
純資産合計	338,919	339,504
負債純資産合計	572,381	613,473

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
売上高	57,683	88,614
売上原価	30,251	41,764
売上総利益	27,431	46,850
販売費及び一般管理費	31,762	46,270
営業利益又は営業損失(△)	△4,330	579
営業外収益		
受取利息	77	89
受取配当金	7	32
持分法による投資利益	971	—
賃貸借契約解約益	—	8,550
為替差益	3,555	14,649
その他	76	2,203
営業外収益合計	4,687	25,525
営業外費用		
支払利息	3,344	4,013
社債利息	4,522	6,081
支払手数料	9	8
持分法による投資損失	—	3,280
その他	215	317
営業外費用合計	8,092	13,701
経常利益又は経常損失(△)	△7,735	12,404
特別利益		
固定資産売却益	—	52
関係会社清算益	—	28
その他	0	2
特別利益合計	0	83
特別損失		
固定資産除売却損	490	1,331
臨時損失	7,046	818
不法占拠に伴う損失	—	1,615
その他	185	29
特別損失合計	7,722	3,795
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△15,457	8,692
法人税、住民税及び事業税	24	269
法人税等調整額	2,916	5,894
法人税等合計	2,940	6,163
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△18,398	2,529
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△18,398	2,529

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△18,398	2,529
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	134	△29
為替換算調整勘定	△2,641	△1,926
退職給付に係る調整額	1	10
その他の包括利益合計	△2,505	△1,945
四半期包括利益	△20,904	584
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△20,904	584
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2020年3月31日 企業会計基準第29号。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。また利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

また、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2020年3月31日 企業会計基準第12号)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2019年7月4日 企業会計基準第30号。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2019年7月4日 企業会計基準第10号)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。

なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結損益計算書注記)

(臨時損失)

当社グループの連結子会社TIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.において、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を背景とした、フィリピン政府や、PAGCOR (Philippine Amusement and Gaming Corporation : フィリピンカジノ運営公社)の要請に基づき、統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」が営業停止した期間の固定費(減価償却費等)を、特別損失に計上したものです。

(固定資産除売却損)

建設業者から納入した固定資産の瑕疵に関して係争中でありましたが、回収可能性を再検討し製品の瑕疵を証明することが困難と判断、当該固定資産を除却することとし、当該影響額1,181百万円を含む1,331百万円を当第3四半期において固定資産除売却損として計上しております。

(4) 追加情報

(不法占拠に関する対応について)

当社の2022年7月12日付「TRLEI四半期実績開示の延期に関するお知らせ」に記載のとおり、岡田和生氏(以下「岡田氏」とその指示を受けたグループが、が2022年5月31日にTIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.(以下「TRLEI」)が運営するオカダ・マニラの施設に侵入、施設及び運営を奪取しました。その後、2022年9月5日付「(開示事項の経過)オカダ・マニラの施設及び運営奪還に関するお知らせ」に記載のとおり、2022年9月2日オカダ・マニラの施設及び運営を奪還しました。

岡田氏とその指示を受けたグループはオカダ・マニラの占拠期間中(2022年5月31日から2022年9月1日)、TRLEIの役職員の解雇、指示に従わない従業員の解雇、契約書等TRLEIの証憑書類の社外への持ち出し、一部の実物資産の不当取得(CAGE(カジノ営業エリア内の両替及び現金管理部門)内に管理している金額の一部持ち出し)、デジタルデータの改竄等を行っている懸念が想定されたことから、本件事案の調査、財務諸表への影響等検討してまいりました。

本件事案に関する調査の結果判明した、岡田氏とその指示を受けたグループが当第3四半期連結累計期間に行った不適切な取引に係る支払額については、各支払先、岡田氏、その指示を受けたグループメンバーに対して求償債権を計上し、長期未収入金として四半期連結貸借対照表の投資その他の資産のその他に計上されています。当該求償債権については回収可能性を慎重に検討した結果、全額の回収に疑義が認められることから同額の貸倒引当金を設定し、特別損失に不法占拠に伴う損失として計上しております。

本件の四半期連結財務諸表への影響については、以下のようになります。

1) 四半期連結貸借対照表

投資その他の資産

その他 1,615百万円

貸倒引当金 △1,615百万円

2) 四半期連結損益計算書

不法占拠に伴う損失 1,615百万円

(銀行預金口座の凍結の解除について)

当社グループの連結子会社TIGER RESORT LEISURE AND ENTERTAINMENT, INCにおけるBDO UNIBANKの預金口座が凍結されておりましたが、今般2022年11月15日付けで口座凍結が解除され、当該預金は随時引き出し可能な預金となっております。

(5) 重要な後発事象

該当事項はありません